

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
保育内容環境 Content of Childcare (Environment)		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程必修・教職課程必修 (幼稚園教諭二種))	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
保育内容総論、保育実習指導 I				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目、幼稚園教諭二種免許に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
高橋登美子	講義棟3階	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
人間が生きていくうえで大切な環境を、保育の重要な要素として考える。自分で体験し、考え、調べ、教材研究をすることで、感性を磨き、保育の実践力を身につける。				
授業の目標				
①幼稚園教育要領、保育所保育指針が目指す「保育内容環境」を、適切に考えることができるようにする。 ②周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持つことができるようにする。 ③子どもの発達を踏まえた保育の具体的取り組みを考えることができるようにする。 ④自然環境を意識した教材研究ができるようにする。 ⑤自らも環境であることを自覚し、適切な保育環境の構成を意識して指導計画を立案することができるようにする。				
授業の方法				
テキストに基づき「保育内容環境」の理解に向けた解説をする。学生自身が周囲のさまざまな「環境」に気づき、積極的に様々な事例研究と環境製作に取り組む。数量・図形・言葉に目を向けた調査報告の課題に取り組む。				
学習の成果(学習成果)				
子どもが、健やかに成長しさまざまな活動がより豊かに展開されるための、発達の援助として必要な環境準備・環境構成ができる。また、養護と保育を踏まえた総合的な保育を展開していくための知識・技術・判断力が身に付く。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(シラバスの説明、領域「環境」について、実習に伴う授業追加について、課題について)			
第2回目	「環境」とは一人間の生活と環境(教室環境の図式化)			
第3回目	幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」のねらい及び内容			
第4回目	子どもの発達と環境—誕生から満3歳までの育ち			
第5回目	5感を働かせる保育の環境と遊び① 絵の具の活用			
第6回目	5感を働かせる保育の環境と遊び② 新聞紙の活用			

第7回目	5感を働かせる保育の環境と遊び③ 牛乳パックの活用	
第8回目	5感を働かせる保育の環境と遊び④ 自然と風を感じる環境製作	
第9回目	5感を働かせる保育の環境と遊び⑤ 数量・図形に親しむ環境製作	
第10回目	季節感を味わうー季節の行事と行事の由来	
第11回目	キャンパス自然マップと好奇心の中から科学を感じる	
第12回目	生活の中の文字・言葉と飼育・栽培の働きかけ	
第13回目	保育環境をデザインする① 映像教材「子どもを育む保育の環境」第1巻 3歳未満児を中心に (30分)	
第14回目	保育環境をデザインする② 映像教材「子どもの育む保育の環境」第2巻 3歳から5歳児を中心に (30分)	
第15回目	保育環境をデザインする③ 子どもの主体性を育む保育室と環境整備、環境としての保育者	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	各自が授業の目的を意識して、「やる気」の見える取り組みであること。教材研究では、身の回りの整理整頓にも心がけ、環境整備ができていること。
レポート	30%	第13回目から第15回目で、映像教材に触れながら留意点を伝える。子どもの動線、コーナー保育、生活環境の整備、遊具の配置など、具体的な表現と描写で保育の環境がデザインされていること。
調査報告書	25%	日常生活の中にある標識や文字、図形を調査する。写真や絵、標識の意味なども記した報告書であること。
小テスト		
試験		
発表内容 (態度含む)	25%	第5回目から第9回目の活動発表を各5点ずつとする。環境という目的に適した活用と製作であること。
その他		
教科書と参考図書		
教科書：領域「健康」 (萌文書林)		
履修上の留意点・ルール		
環境製作の教材研究では、必要なものは各自が準備、持参する。 保育環境を整えることの重要性を考える取り組みを目指し、自らが環境であることを自覚した活発な演習活動を期待する。		